



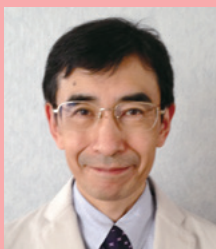
話を聞く

子育てをしているといろいろな出来事があります。日常のささいな子どもの失敗から、びっくりするような大事件まで、さまざまなことを経験します。そんな場面に出くわした時、親は子どもにどう接するか、ここが肝心なところ。特に親自身が感情的になったときに注意すべき場面です。まずは親自身が冷静になりましょう（これがまたひと苦労ですが）。そして、どのような言い方をすると子どもは「自分には能力がある」と感じてくれるかな、「親は自分の仲間だ」と思ってくれるかな、と考えながら対応します。その時とっさにできなくても後で思い出して、次から工夫してみてもいいのです。それでも、どうしたらいいかわからなければ、とりあえず子どもの話を聞きましょう。そして、その出来事から子どもはどう感じたのか、これからどうしようと思ったのかをぜひ尋ねてみてください。子どもは体験から多くのことを学んでいきます。子どもの感

じたことや考えたことを聞いてあげるだけで、その学びを手助けすることができます。こんなことができるのは、常に子どものそばにいる親だからこそです。

感情的になってしまう

「つい怒ってしまう」、「とても不安になる」など子どものことで親は感情的になることがあります。親として子どものための思うがゆえのことなのですが、ひとつ、覚えておいてほしいのは「感情的になっていると子どもに対してよい援助にはならない」という点です。自分が感情的になっているなどと思ったら、一歩退いて、冷静になるのを待ちましょう。冷静になるのも、感情的になるのも、実は自分がそれを選んだ結果です。子どものせいにははいけません。自分の感情は自分自身で解決すべき問題なのです。



柳本 利夫

新潟市生まれ、新潟市育ちです。平成5年に西区で小児科医院を開業してから、かれこれ20年以上たちます。医院のケヤキは大きくなりすぎ、建物と院長は古くなってきました。小児科医の立場で子育ての支援ができたらいいなと考えています。

やぎもと小児科・親子支援室「元気になろう」
新潟市西区中権寺2941

STOP!! 児童虐待

どんな行為ですか？ 以下の4つの種類に大別できます。

身体的虐待…子どもの身体を傷つけること

首を絞める・殴る・蹴る・激しく揺さぶる・熱湯をかける・溺れさせる・逆さ吊りにする・異物を飲ませる・タバコを押し付ける・冬に戸外にしめだす・意図的に子どもを病気にさせるなど



性的虐待…児童にわいせつな行為をすること、させること

子どもへの性交・性的暴力・性的行為の強要・性的行為を見せる・ポルノグラフィーの被写体などにすることなど



ネグレクト…養育の怠慢、拒否

食事を与えない・衣服を長期間ひどく不潔なままにする・重大な病気になっても病院に連れて行かない・乳幼児を家に残したまま度々外出する・自動車の中に放置する子どもの意に反して学校等に登校させない・子どもに対する祖父母、きょうだいなどの身体的虐待、性的虐待または心理的虐待を放置するなど



心理的虐待…子どもに著しい心理的外傷を与えること

言葉で脅迫する・無視する・拒否的な態度を示す・子どもの心を傷つけることを繰り返し言う・他のきょうだいとは著しく差別的な扱いをする・子どもをあざ笑う・子どもの目の前で家族に対して暴力をふるうなど

どうしておきるの？

一概には言えませんが児童虐待は、身体的、精神的、社会的、経済的などのいろいろな要因が複雑に絡み合って起こると考えられています。

どうしたらいいの？

児童虐待は、家庭内で起きているもので発見されにくい状況にあります。早期発見・早期支援につなげるため、あなたの身近に子どもが泣き続けている、何か気になることがあったら、区役所や児童相談所まで相談してください。



子ども虐待防止 オレンジリボン運動

「オレンジリボン運動」は、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子どもの虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。児童虐待防止全国ネットワークでは、オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。